第3章

川越市観光振興計画の目指す姿

第３章 川越市観光振興計画の目指す姿

３－１．基本理念と考え方

本市は、歴史的な観光資源と都心からの交通利便性に恵まれ、今では、年間 650 万人以上の観光客が訪れる県内有数の観光地となっています。

国では訪日外国人旅行者「2000 万人時代」の早期実現に備えた受入環境整備を推進しており、本市の観光を取り巻く環境も 2020 年に東京オリンピックのゴルフ競技の開催予定地となり、大きく変化します。一方、今後、日本の人口減少、少子高齢化が進行していく中で、国内の旅行市場も縮小していくことが予想されています。こういった状況の中で、10 年先も持続可能な観光を推進し、市民が誇りを持てるまち、市民が住み続けたいと思える魅力あるまちを実現するため、本市では歴史や伝統文化を生かした観光振興に取り組んでいます。また、今後は、これまでとは違った視点で、インバウンド施策を積極的に推進するとともに、周辺市町と広域連携による新しい観光ルートを形成し、川越観光を国内外に向けて発信していく必要があります。

これらの目標を達成するには、市民、産、学、公が連携した観光振興への取り組みが求められ、まち全体でシティプロモーションに取り組み、地域の PR や知名度の向上を通して、地域への市民の愛着を形成していくことが必要となります。

以上を踏まえ、第二次川越市観光振興計画において、本市が具体的に取り組む施策の基本理念を、以下のとおり定めます。

基本理念

世界に発信しよう！EDO が粋（いき）づくまち　小江戸川越

3－2．基本方針と方向性

本市の地域特性や観光の現状、施策の実施状況、基本理念を踏まえたうえで、本計画の実現に向けた基本方針と方向性を次のように定めます。

基本方針①　新たな観光を創りだそう

農業、商業、工業との連携を軸に、歴史や伝統文化を生かし、観光資源の発掘・磨き上げ等により観光地の魅力及び質の向上を推進します。

基本方針②　外国人が一人でも楽しめる川越を演出しよう

日本人はもとより、外国人が気軽に川越を訪れ、自由にまち歩きを楽しむことができるような町を演出するとともに、国内外へ向けた情報発信力の強化を図ります。また、東京オリンピックの開催を契機にインバウンド事業を推進し、外国人観光客に対してやさしい観光まちづくりを目指します。

基本方針③　安心して観光を楽しめる環境を作ろう

川越の観光を安心して楽しんでもらえる環境を整備するため、ハードとソフトの両面から受入環境の向上を推進します。また、次世代の観光を担う人材の育成を推進します。

受入環境の整備に要する資金について、「川越市みんなで支える観光基金」(注3)を活用します。

基本方針④　市民の視点で観光まちづくりを進めよう

市民が観光事業に関わり、そして楽しめるように、市民参加による協働の観光まちづくりを推進し、住むことに誇りを持ち、住み続けたいと思える魅力あるまちの実現を図ります。また、地域間で連携して、新たなサービスや魅力を生み出すことを目指し、地域連携ネットワークを強化します。

(注3) 川越市みんなで支える観光基金：市民、団体、企業及び川越市外の居住者、観光客など、誰でも寄附が可能な基金で、川越市の観光振興を図るための事業に充てられる。